

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年7月29日

【四半期会計期間】 第110期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 東京産業株式会社

【英訳名】 TOKYO SANGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 蒲原 稔

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 管理本部長 田沢 健次

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 管理本部長 田沢 健次

【縦覧に供する場所】 東京産業株式会社 東海支店
(名古屋市中村区名駅三丁目28番12号(大名古屋ビルヂング21階))
東京産業株式会社 関西支店
(神戸市中央区海岸通3番地(シップ神戸海岸ビル8階))
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、税務調査の過程において、環境・化学・機械事業に係る取引において実体に疑義のある売上が存在するとの指摘があり、これを端緒に社内調査を実施しましたところ、特定の従業員が取引先複数社との間において実体が伴わない循環取引または架空取引を行っていたことが判明いたしました。

これを受けて、より客観的かつ公平な視点・立場から十分かつ適切な調査を実施する必要があるとの判断に至り、2022年5月26日取締役会において、特別調査委員会の設置を決議し、同日より特別調査委員会による調査が開始されました。

特別調査委員会による調査の結果、当該従業員が過去において行っていた取引の一部については、契約書や納品書といった一般的に取引を立証する証憑が存在し、金銭の授受も行われていたが、証憑は巧妙に偽造されるなど、実体のない循環取引または架空取引であった事実が判明しました。そのため、これらの取引について、売上高、売上原価を取り消すとともに、当該不正事案により生じた損失を不正関連損失として特別損失に計上することとしました。

当該訂正により、2020年2月7日に提出し、2020年9月28日に訂正報告書を提出いたしました第110期第3四半期報告書（自2019年10月1日至2019年12月31日）の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

独立監査人の四半期レビュー監査報告書

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第109期 第3四半期 連結累計期間	第110期 第3四半期 連結累計期間	第109期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	90,020	76,078	124,954
経常利益	(百万円)	2,144	2,096	2,540
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,138	1,349	1,378
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	819	1,224	1,204
純資産額	(百万円)	23,601	24,472	23,631
総資産額	(百万円)	56,819	69,252	75,237
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	42.33	50.13	51.24
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	41.5	35.3	31.4

回次		第109期 第3四半期 連結会計期間	第110期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	11.57	16.42

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定において、株式付与ESOP信託が保有する当社株式(第109期第3四半期連結累計期間は590,500株、第109期は585,100株、第110期第3四半期連結累計期間は573,110株)及び役員報酬BIP信託が保有する当社株式(第109期第3四半期連結累計期間は229,750株、第109期は229,750株、第110期第3四半期連結累計期間は229,750株)を自己株式として処理していることから、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下の通りであります。

(電子精機事業)

第2四半期連結会計期間において、菱東貿易(上海)有限公司の重要性が増したことから、連結の範囲に含めております。

(電力事業)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社KDIグローバルマネージメントの株式を新たに取得したことにより、同社及び同社の子会社であるキクデンインターナショナル株式会社をそれぞれ連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、内需は個人消費に支えられ底堅く推移し、外需はIT需要の回復や設備投資抑制姿勢の緩和などの傾向はみられるものの、足元の景気は依然として停滞感の強い状況にあります。また世界経済は、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題などの要因から、先行き不透明な状況が続いております。

このようななか、財政状態及び経営成績は以下のとおりであります。

財政状態

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、692億52百万円となり、前連結会計年度末と比較して59億84百万円の減少となりました。主な要因として、有形固定資産の増加により固定資産が3億27百万円増加したものの、売上債権の減少等により流動資産が63億12百万円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は447億80百万円となり、前連結会計年度末と比較して68億26百万円の減少となりました。主な要因として、引当金の増加により固定負債が51百万円増加したものの、仕入債務の減少等により流動負債が68億77百万円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は244億72万円となり、前連結会計年度末と比較して8億41百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は35.3%となりました。

経営成績

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期に比べ139億42百万円減少の760億78百万円（前年同四半期比15.5%減）となりました。

売上総利益は59億49百万円（前年同四半期比1億68百万円増、2.9%増）、営業利益18億46百万円（前年同四半期比27百万円減、1.4%減）、経常利益20億96百万円（前年同四半期比48百万円減、2.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益13億49百万円（前年同四半期比2億11百万円増、18.5%増）となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

従来、「化学・環境事業」に含めておりました、販売先がプラントメーカー等となる発電設備補機関係のうち、エンドユーザーが電力事業者となるものにつきまして、第1四半期連結会計期間より、「電力事業」に組み替えを行っております。

これは、今後、電力自由化がさらに進むことが予想される現状を踏まえ、業務管理の効率性、強化を目的とし、社内の管理組織を見直したことに伴う変更であります。

なお、第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

(電力事業)

売上高は433億66百万円と前年同四半期に比べ1億30百万円の減少となっております。また、セグメント利益は7億75百万円と前年同四半期に比べ3億34百万円の増加となりました。

(化学・環境事業)

売上高は179億33百万円と前年同四半期に比べ162億98百万円の減少となっております。また、セグメント利益は5億6百万円と前年同四半期に比べ6億42百万円の減少となりました。

(電子精機事業)

売上高は97億76百万円と前年同四半期に比べ19億80百万円の増加となっております。また、セグメント利益は3億55百万円と前年同四半期に比べ2億40百万円の増加となりました。

(生活関連事業)

売上高は49億円と前年同四半期に比べ2億13百万円の増加となっております。また、セグメント利益は1億62百万円と前年同四半期に比べ17百万円の増加となりました。

(その他)

売上高は1億1百万円と前年同四半期に比べ1百万円の増加となっております。また、セグメント利益は47百万円と前年同四半期に比べ1百万円の増加となりました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,678,486	28,678,486	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	28,678,486	28,678,486		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年12月31日		28,678		3,443		2,655

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 959,100		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,673,200	276,732	同上
単元未満株式	普通株式 46,186		同上
発行済株式総数	28,678,486		
総株主の議決権		276,732	

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式11株及び証券保管振替機構名義株式78株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式575,700株(議決権の数5,757個)、同社(役員報酬BIP信託口)が保有する当社株式229,700株(議決権の数2,297個)及び証券保管振替機構名義株式400株(議決権の数4個)が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京産業株式会社	東京都千代田区 大手町二丁目2番1号	959,100		959,100	3.34
計		959,100		959,100	3.34

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式575,700株、同社(役員報酬BIP信託口)が保有する当社株式229,700株は、上記自己株式には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,432	7,905
受取手形及び売掛金	37,553	21,321
有価証券	2,200	1,700
商品	894	1,112
前渡金	9,455	16,798
その他	1,280	1,663
貸倒引当金	14	14
流動資産合計	56,799	50,487
固定資産		
有形固定資産	9,660	10,409
無形固定資産	60	75
投資その他の資産		
投資有価証券	5,227	5,051
その他	3,498	3,237
貸倒引当金	8	8
投資その他の資産合計	8,716	8,280
固定資産合計	18,437	18,765
資産合計	75,237	69,252
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,391	8,759
受託販売未払金	23,733	6,228
短期借入金	1,447	3,737
未払法人税等	456	199
前受金	10,771	18,415
引当金	389	191
その他	1,443	2,224
流動負債合計	46,632	39,755
固定負債		
長期借入金	2,812	2,816
引当金	240	272
退職給付に係る負債	-	10
その他	1,919	1,925
固定負債合計	4,973	5,024
負債合計	51,606	44,780

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金	2,822	2,822
利益剰余金	16,507	17,478
自己株式	678	673
株主資本合計	22,094	23,071
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,397	1,324
繰延ヘッジ損益	24	21
土地再評価差額金	36	36
為替換算調整勘定	-	35
退職給付に係る調整累計額	126	97
その他の包括利益累計額合計	1,536	1,401
純資産合計	23,631	24,472
負債純資産合計	75,237	69,252

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	90,020	76,078
売上原価	84,240	70,129
売上総利益	5,780	5,949
割賦販売未実現利益戻入額	12	-
差引売上総利益	5,792	5,949
販売費及び一般管理費	3,919	4,102
営業利益	1,873	1,846
営業外収益		
受取利息	8	8
受取配当金	213	204
為替差益	22	0
その他	78	87
営業外収益合計	321	301
営業外費用		
支払利息	45	46
その他	5	4
営業外費用合計	51	51
経常利益	2,144	2,096
特別利益		
投資有価証券売却益	0	3
受取保険金	0	-
特別利益合計	0	3
特別損失		
固定資産処分損	0	1
不正関連損失	336	87
特別損失合計	336	89
税金等調整前四半期純利益	1,808	2,010
法人税等	670	661
四半期純利益	1,138	1,349
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,138	1,349

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,138	1,349
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	249	73
繰延ヘッジ損益	25	3
為替換算調整勘定	-	24
退職給付に係る調整額	42	29
その他の包括利益合計	318	124
四半期包括利益	819	1,224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	819	1,224
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、菱東貿易(上海)有限公司の重要性が増したことから、また、当第3四半期連結会計期間において、株式会社KDIグローバルマネージメントの株式を新たに取得したことにより、同社及び同社の子会社であるキクデンインターナショナル株式会社をそれぞれ連結の範囲に含めております。

なお、これらの会社の決算日と当社の連結決算日が異なっております。四半期連結財務諸表の作成にあたり、菱東貿易(上海)有限公司については、2019年9月30日現在の財務諸表を使用し、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

また、株式会社KDIグローバルマネージメント及びキクデンインターナショナル株式会社については、四半期連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しています。

(追加情報)

(株式付与ESOP信託に係る取引について)

当社は、当社従業員への福利厚生を目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」(以下、「本信託」という。)を導入しております。

(1)取引の概要

当社が従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定いたします。本信託は、予め定める株式交付規定に基づき従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当によって取得いたします。

その後本信託は、株式交付規定に従い、信託期間中の従業員の職務等級及び会社業績等に応じた当社株式を在職時に従業員に交付いたします。本信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)を適用しております。

(2)信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しており、前連結会計年度末における帳簿価額は276百万円、株式数は585,100株、当第3四半期連結会計期間末における帳簿価額は271百万円、株式数は573,110株であります。

(役員報酬BIP信託に係る取引について)

当社は、取締役(社外取締役を除く。)並びに、当社と委任契約を締結している執行役員及び同等の地位を有する者(以下、「取締役等」という。)を対象に、当社の中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的として、「役員報酬BIP信託」(以下、「本信託」という。)を導入しております。

(1)取引の概要

当社が、取締役等のうち一定の受益者要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定いたします。本信託は、予め定める株式交付規定に基づき、取締役等に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当により取得いたします。

その後本信託は、株式交付規定に従い、一定の受益者要件を満たす取締役等に対して、毎事業年度における業績指標等に応じて決定される株数の当社株式を退任時に交付いたします。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に準じております。

(2)信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しており、前連結会計年度末における帳簿価額は118百万円、株式数は229,750株、当第3四半期連結会計期間末における帳簿価額は118百万円、株式数は229,750株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形及び売掛金	281百万円	236百万円
支払手形及び買掛金	392百万円	400百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	387百万円	375百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	304	11.00	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金
2018年10月29日 取締役会	普通株式	249	9.00	2018年9月30日	2018年12月5日	利益剰余金

(注) 1. 2018年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金6百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 2018年10月29日取締役会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金5百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	304	11.00	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金
2019年10月28日 取締役会	普通株式	277	10.00	2019年9月30日	2019年12月5日	利益剰余金

(注) 1. 2019年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金6百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 2019年10月28日取締役会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金5百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社は、2019年7月31日開催の取締役会において、株式会社KDIグローバルマネージメントの全株式を取得し子会社化することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2019年10月1日付で全株式を取得いたしました。それに伴い、同社の子会社であるキクデンインターナショナル株式会社も子会社化されております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社KDIグローバルマネージメント
事業の内容 キクデンインターナショナル株式会社の資産管理業務

被取得企業の名称 キクデンインターナショナル株式会社
事業の内容 重電器向け電気部品等の仕入、販売

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社KDIグローバルマネージメントの100%子会社であるキクデンインターナショナル株式会社が扱う製品及び顧客層は当社事業と補完関係にあり、当社グループが掲げる中期経営計画における成長戦略の強化に大いに資すると思われるためです。

(3) 企業結合日

2019年10月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

結合前から変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年10月1日から2019年12月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金539百万円

取得原価 539百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー等に対する報酬・手数料等 8百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

43百万円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

1年間にわたる均等償却

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力事業	化学・環境 事業	電子精機 事業	生活関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	43,496	34,232	7,795	4,687	90,212	100	90,312
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	43,496	34,232	7,795	4,687	90,212	100	90,312
セグメント利益	441	1,148	114	144	1,849	45	1,895

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,849
「その他」の区分の利益	45
四半期連結損益計算書の営業利益	1,895

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力事業	化学・環境 事業	電子精機 事業	生活関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	43,366	17,933	9,776	4,900	75,976	101	76,078
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	43,366	17,933	9,776	4,900	75,976	101	76,078
セグメント利益	775	506	355	162	1,799	47	1,846

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,799
「その他」の区分の利益	47
四半期連結損益計算書の営業利益	1,846

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、「化学・環境事業」に含めておりました、販売先がプラントメーカー等となる発電設備補機関係のうち、エンドユーザーが電力事業者となるものにつきまして、第1四半期連結会計期間より、「電力事業」に組み替えを行っております。

これは、今後、電力自由化がさらに進むことが予想される現状を踏まえ、業務管理の効率性、強化を目的とし、社内の管理組織を見直したことに伴う変更であります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しており、前第3四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	42円33銭	50円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,138	1,349
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,138	1,349
普通株式の期中平均株式数(株)	26,891,406	26,911,981

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりませ
ん。

2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益
金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(前第3四半期連結累計期間)

- ・株式付与ESOP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 591,830株
- ・役員報酬BIP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 236,590株

(当第3四半期連結累計期間)

- ・株式付与ESOP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 577,677株
- ・役員報酬BIP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 229,750株

2 【その他】

第110期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)中間配当については、2019年10月28日開催の取締役会において、2019年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

配当金の総額	277百万円
1株当たりの金額	10.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年12月5日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年 7月29日

東京産業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 永 井 勝
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京産業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京産業株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して2020年9月28日に四半期レビュー報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の四半期連結財務諸表に対して本四半期レビュー報告書を提出する。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。